

## 疫学研究実施のお知らせ

当科では当院の医の倫理委員会の承認を受け、以下の疫学研究を行っております。

**研究課題名：**骨再建用チタンメッシュプレート破折症例の流体解析を用いた力学的評価（後ろ向き調査）

**研究の目的：**当院歯科口腔外科では、口腔顎顔面領域の腫瘍をはじめ、先天的・後天的な要因による顎骨欠損患者治療を多く行っています。

顎骨欠損範囲が大きい場合には、近年、術前に CT 撮影を行いコンピューターシミュレーションにより、3 次元的に形態的に精度の高い、患者さん自身の顎骨形態を模した完全カスタムメイドチタンメッシュプレートが開発されました。

しかしながら、症例を重ねるにしたがい、チタンメッシュプレートの一部に破折を来した症例を経験したことから、東北大学歯学部顎顔面・口腔外科学分野と共同し、CT エックス線データをもとに、流体解析を行うことで、顎骨とチタンメッシュレイに及ぼす応力分布を解析し、使用部位や欠損顎骨範囲により機械強度的に差異があるのか否かを検証することを目的とします。

**研究の対象：**2012 年 4 月から 2015 年 12 月までの間に当院歯科口腔外科にてカスタムメイドチタンメッシュプレートにて加療を行った患者さん。

**研究の方法：**当院に保存されているカルテを含めた医療情報から、患者さんのカスタムメイドチタンメッシュプレート作製に用いた CT エックス線データと、その治療後経過予後に関して、東北大学歯学部顎顔面・口腔外科学分野と共同し、CT エックス線データをもとに、流体解析を行うことで、顎骨とチタンメッシュレイに及ぼす応力分布を解析し、評価検討を行います。治療経過予後も合わせて解析しますので、患者さんの ID、生年月日、イニシャルを利用させていただきますが、その他の個人情報には利用せず、匿名化した状態でデータを扱います。

**研究の意義：**破折を来した症例に関して、流体解析を行うことで、顎骨とチタンメッシュレイに及ぼす応力分布を解析し、使用部位や欠損顎骨範囲により機械強度的に差異があるのか否かを検証することにより、今後の当院の顎骨再建患者さんへ、さらに予後の良い、患者さん毎の完全カスタムメイドチタンメッシュプレート作製による、より良い顎骨再建治療提供へ導きます。

**研究実施期間：**2018 年 3 月まで

\*この研究の対象となりうる当院の患者さんで、ご自身の情報を研究に利用してほしくないとのご要望がおありでしたら、2018年3月31日までに、下記へご連絡ください。このような場合においても、診療などの病院サービスにおいて患者さんに不利益を生じることは一切ありません。

\*また本研究における調査データ結果に際しては、本調査研究目的以外には使用いたしません。

\*この研究にご質問がありましたら、下記までお問い合わせください。

(お問い合わせ連絡先) 島根大学医学部歯科口腔外科 関根浄治、管野貴浩

電話：0853-20-2301 ファックス：0853-20-2299